

第3回 学生・教職員FD活動交流会の実施結果について

学生・教職員FD活動交流会では、本学のFD活動への学生参画の促進と大学教育の活性化を図るために、本学においては、「優れた授業は教員だけでなく、参加するすべての構成員の高い意識があつて、はじめて成立するものである」ことを念頭において、教員と学生が学び合う環境を実現している授業を選定する仕組みを、学生と一緒に模索している。

《開催日時・場所》

令和2年11月16日（月）16：30～18：00

《会議形式》 zoomによる開催

《参加者》	22名	（内訳）	大学院学生	10名
			学部学生	2名
			教員	7名
			事務職員	3名

《実施内容》

1. 学生による授業評価等の意見交換について

①ベストクラス候補選定方法について、②学生による授業評価についての2点に基づき、全体で意見交換を行った。主な意見については、別紙（第3回 学生・教職員FD活動交流会記録メモ）のとおり。

2. 次回開催について

開催する場合は、事務局から日程照会を行う。

第3回 学生・教職員FD活動交流会記録メモ

○学生による授業評価について

【評価項目】

- ・項目⑦（教員は、学生の参加をうながすため、適切な授業方法を工夫していた。）について、オンライン授業では、質問しにくい環境だった。
- ・項目の量が多すぎるとは思わない。
- ・具体的な項目があった方が答えやすい。例えば項目⑭（「理論と実践の融合」について配慮がなされていた。）は答えにくい。
- ・オンライン授業か、対面授業かの項目を追加する。同一基準で評価すると観点が違ってくる。
- ・履修者の人数によって項目を変えてもよいのではないか。
- ・項目⑮（オンラインのメリットが活かされた授業だった。）について、オンラインのメリットが活かされた授業とは？また、メリットとは何を指すのか。
- ・学生側の取り組みに関する項目を追加しても良いのではないか。学生がどのように取り組んでいたかということは教員側からも重要だと思う。
- ・項目⑮について、本学の対面授業を体験していない1年次と、体験している2年次以上では、評価の観点が違う。
- ・項目⑰（この授業で提示された課題の量は適切であった。）について、履修している授業科目数によって、評価の観点が違う。
- ・項目⑱（毎回の授業の予習・復習にかけた時間は平均どれくらいですか。）について、課題を含めると、全員「4.3時間以上」となり、課題を多く課す授業は、自動的に評価点が高くなる。
- ・授業担当教員作成の独自項目を設けると、ベストクラス選定の評価に影響がある。

【授業評価の実施・通知方法】

- ・オンラインだと期間が長いので自由記述が記入しやすい。
- ・昨年度までのマークカードで授業評価をする場合、授業時間内に授業評価の時間をとって回答できるよう実施すると、学生も次の授業開始を気にせずに回答できる。
- ・メールでの授業評価通知は埋もれてしまうので、回答することを忘れてしまう。
→偏った意見となり、回答率も低くなる。（実際に今年度は、昨年度に比して低い。
〔R1前期回答科目割合：97.8% R2前期回答科目割合：94.5%（△3.3%）〕）
- ・他者（授業担当教員や学生など）の目が気になるので、紙で書くよりは、オンラインの方が記入しやすく、時間もかけられる。
- ・履修者数が少ない場合に、マークカードで回答して教員が回収する方法だと回答しづらいが、オンラインは回答しやすい。
- ・授業評価通知の時期にバラつきがあるので、締切を揃える。または、大学で統一すべきである。
- ・授業評価専用のサイトを作成する。まとめて回答できるようにすると、埋もれることや回答し忘れがなくなるのではないか。

- ・ LiveCampus の「授業評価アンケート」項目を活用する。レポート機能のように×切が表示されたら、メールで埋もれることがなくなるのではないか。
- ・ 1年次と2年次以上では、対面授業を体験の有無が異なるので、オンライン授業の授業評価への向き合い方が異なる。

○ベストクラス選定方法について

- ・ 項目ごとに突出して評価が良い科目も参考になると思うので、ベストクラスを項目ごとに分けてもいいのではないか。
- ・ 複数教員で担当する授業科目を評価する場合、総合的な判断がしづらい。
- ・ 教員ごとに評価・選定をすると、「ベストティーチャー」を選定することになってしまう。
- ・ 授業評価自体が満点主義になっているので、評価基準を見直すべきである。
→デコ（評価点が低くても、突出して良い授業の取り組み）の部分を拾えていない。
- ・ 良い授業を画一化しないため。
- ・ なぜ対面授業の経験がない1年次が昨年度の授業評価をしているか疑問である。
→U2, M2, P2の学生を対象にすべきである。U1, M1, P1は負担が大きい。

○FD活動のアピール方法

- ・ FD活動をもっとオープンにしていくべきではないか。
→それがより良いFD活動につながる。
- ・ FD活動（ベストクラス選定等の学生）の体験談をアピールする。
- ・ 入学前のパンフレット等にFD活動を本学の特色としてアピールする。
- ・ 各クラス・各コースから学生メンバーを選出する際に、アピールする材料が少ない。
- ・ 参加する意味がある活動であることを、後輩に伝えていくべきである。

以上